

われわれが住まいる社会、つまり地球を取り巻く環境は、過去から現代・未来へと刻々微妙に変化し、ひと時として一か所にとどまることはありません。

その微妙な問題と感動の推移を形にして投げかえすのがアートであり、それを文字を用いて表現したものが文学なわけですが、それは上記の意味で必ずしも過去の傑作を生んだ形式や方法では今では捉えきれず、つい一世紀前の名作が必ずしも今を生きる人々に感動を与えるに万全の作とは申せません。

あたかもその虚を衝いて投げかけられたかとも思える今回の呼びかけ「文学レボリューション」。2000～3000字の長さの中でユーモアやサスペンスを生かし、今と未来の意味を一気に問う現代のショートショート。その一方で斬新な文学アートの誕生のためには、あえて社の空間まで提供して書き手への配慮を怠らない企画側のあたたかさ。

これこそ常に新しい時代の芸術の在り方に情熱と研究を惜しまない向田氏にしてピタリの着想と言わずして何でしょう。つまりは22世紀アートという社名にもっともふさわしい、シャープで得難い企画だと断じてはばかりりません。もろ手を挙げて今回の企画に賛意と応援を送る所以です。期待しています！